

THE 主催／グランフォニック 後援／愛知県合唱連盟
GRANPHONIC
CONCERT 17th

グランフォニック第17回定期演奏会

三井住友海上しらかわホール
2023年10月21日(土)
開演4:00pm(開場3:30pm)



本日はグランフォニック第17回定期演奏会にお越しくださり、誠にありがとうございます。
コロナで歌えない期間を経て、4年ぶりの演奏会を迎えることができ感激していると共に、この間、多くの方々よりご支援ご指導を賜り、感謝の気持ちでいっぱいです。

この4年間で振り返り今思うことは、自分は本当に「歌うことが好き」なんだということです。22年春、本格的に練習を再開し久しぶりにメンバーとハモった時には思わず鳥肌が立ち、感動したことは今でも鮮明に覚えています。私たちメンバーは、年齢や出身、職業も全てバラバラですが、「歌うことが好き」という太い絆で結ばれています。60歳をとうに超えたメンバーが大半ではありますが、歳を重ねても、これだけ情熱を注げるものがあるということ、より高いレベルの音楽を目指す仲間がいることは、人生を豊かなものにしてきています。

そして、この定期演奏会に向けて、鈴木健司先生にヴォイストレーニングをして頂きました。新たな気付きをたくさん得ることができ、メンバー全員が“更なる上へ!”という気持ちで本日を迎えています。

向上心を忘れず、歌うことへの情熱にあふれる私たちの歌声が皆さまに届きますことを願っています。

グランフォニック団長 中川 暢

history グランフォニックの歴史



1994年、グランフォニックの前身である「東西四大学OB合唱団東海」なるものが産声を上げました。その後、四大学OB以外のメンバーが続々と入団し、2000年、「グランフォニック」と改称し、1年半に1回定期演奏会を開催し、いよいよ来年で創立30周年を迎えます。

過去取り上げた主な曲は、オリジナル作品では「パパの子守歌」「玉照姫外伝」「エリーの青春」、演出ステージは「メリー・ウィドウ」「学生王子」「レ・ミゼラブル」、日本歌曲は「瀧廉太郎」「八木重吉」「淡彩抄」、外国語はシューベルト、マーラー、ブラームス、チャイコフスキー、トスティ、となっております。また畑中良輔先生、小林研一郎先生を客演指揮に招聘しております。

オープニング グランフォニック ～新しい風～ 作詞・作曲：なりた まさと

1st stage 「アラカルトステージ」
歌う喜び、歌の力（過去を振り返り、未来に向けて）

<外国の曲から>

Die Nacht / 夜 作曲：フランツ・シューベルト

Psalm23 / 詩篇23番 作曲：フランツ・シューベルト

<日本の曲から>

「かきつばた」 男声合唱組曲（「柳河風俗詩」より） 作詞：北原白秋 作曲：多田武彦

「こころようたえ」 作詞：一倉 宏（「ことばになりたい」より） 作曲：信長貴富

「引き念仏」（コンポジションⅢより） 作曲：間宮芳生

<オリジナル曲から>

「五月のそよかぜ」 「緑のそよかぜ」（花鳥風月より） 編曲：なりた まさと

「TREASURE / 絆」 作曲：向川原慎一

指揮：向川原慎一 高津真司 浅井良之
ピアノ：はやせ ようこ
司会進行：永井一美

————— 休 憩 —————

2nd stage ワンステージメンバー参加ステージ
「心の四季」 作詞：吉野 弘 作曲：高田三郎

編 曲：須賀敬一
指 揮：高津真司
ピアノ：はやせ ようこ

————— 休 憩 —————

3rd stage 「シベリウス合唱曲集」
レミンカイネンの歌
月よ こんにちは
フィンランディア

指揮：向川原慎一
ピアノ：はやせ ようこ

舞台監督：磯田有香
ロビーマネジメント：OFFICEリラン

「アラカルトステージ」 このステージは私たちが歩んできた足跡を振り返り、未来に向けて歌う喜びや歌う力を
ご来場の皆様にお届けすることを目的としています。

私たちは発足以来、「歌を通じて生きる喜びを感じ、伝えること」を理念とし、

1. より高度な水準の男声合唱を目指す
2. 創作、編曲に限らずオリジナル作品を必ず発表する
3. ドイツ語(または他の外国語)の曲をキチンと歌う

を基本方針として活動してきました。

これらの方針に基づき、以下の8曲を選んでアラカルト風に構成してみました。

<外国の曲から>

Die Nacht/夜

大正年間から演奏されたとされるこの曲は、誰もが日常で感じる夜の美しさや静けさを至上
のものとして捉え、星々の動きや春の訪れを自然の情景に例えながら感性豊かに讃えています。
「何とお前は美しいのだろう 心地よい静けさ 天のやすらぎ・・・」

Psalm23/詩篇23番

聖書で祈りの言葉として親しまれている内容。ピアノ伴奏の三連符に乗って美しい和声
が展開されます。途中何度か転調が繰り返され心の揺らぎが表現されます。
「主は私(羊)の羊飼い 私は何も欠けることはありません・・・」

<日本の曲から>

かきつばた

学生時代に男声合唱に親しんだ人なら誰もが薫陶を受けた多田武彦の初期の作品。
柳川の水郷に可憐に咲くカキツバタを寂れた花街の女に例え、情感たっぷりにアカペラで
歌い上げます。

こころよ うたえ

東日本大震災を機に東北の合唱復興のシンボリックな存在として、また歌を愛する合唱人
たちの愛唱歌として広く歌われるようになりました。歌への憧憬や思い入れが見事に表現
されています。

引き念仏

日本の伝統音楽(ここでは岩手の鬼剣舞・千夜念仏)に基づきエチュード的に構成され
ています。普段取り組んでいる西洋の完全音階やベルカント唱法などとは異なる表現法が
求められます。

<オリジナル曲から>

グランフォニックが企画し2002年に初演された「花鳥風月」は、ドイツと日本の春に関
する詩や歌をベースに挿入曲を交えて団員が編曲したのですが、その中の「風」から次
の2曲を選びました。

五月のそよ風

ドイツの風で、春とビールを讃えるドイツの学生歌です。ボックビールとは五月に飲める
度の強いビールで、調子に乗って飲んでみるとみんな酔っぱらってしまいます。

緑のそよ風

日本の風で、戦後復興期にできた明るい希望に満ちた歌です。さわやかな風が目の不自由
な少年の頬に指先に戯れ、緑色になり、水色になって春を運んできます。

TREASURE/絆

アラカルトのステージを締めくくるこの曲は、当団出身の作曲家向川原慎一氏により
このステージのために書き下ろされた新曲で、作詞には団員の面々が参画しています。
私たちが歩んできた足跡を振り返り、未来に向けて絆を大切にしながら希望を持って力強く
歩いていく決意を表しています。

「心の四季」

1967年に混声版として生まれ、2002年に東海メールクワイアーが須賀敬一氏に男声版に編曲依頼して生まれた「心の四季」を、ワンステージメンバーを加え約60名の合唱として歌います。全7曲を、美しい日本語の発音で、時には男性の生きざまを力強く歌い、日本の美しい四季の移り変わりの中で生きる喜びを伝えたいと思っています。

風が 「風が桜の花びらを散らす 春がそれだけ弱まってくる・・・」
春は水彩画、夏は油絵、秋は点描画、冬は水墨画のイメージを出し歌います。

みずすまし 「一滴の水銀のような みずすまし やや重く 水の表をくぼませて・・・」
人間は日常という水面に浮かんでいるみずすましのようだ、と言います。

流れ 「岩がしぶきをあげていた 深みを渡る 馬のよう・・・」
男声合唱のダイナミズムで歌います。

山が 「山が 遠くから 人の心を とりこにする・・・」
憧れの山に向かって歌います。

愛そして風 「愛の疾風(はやて)に吹かれた人は 愛が遥かに遠のいたあとも・・・」
過ぎた(時には苦い)思い出を胸に歌います。

雪の日に 「雪がはげしく ふりつづける 雪の白さを こらえながら・・・」
これぞ男声合唱、東北、北海道の豪雪をイメージして激しく歌います。

真昼の星 「ひかえめな 素朴な星は 真昼の空の 遥かな奥を・・・」
魂は天に昇り地上を見ているのか、静かに歌い終えます。

(高津眞司)



「シベリウス合唱曲集」 19世紀から20世紀初頭のフィンランドはロシアの支配下であって、民族としてのアイデンティティを認められていませんでした。その頃作曲家として頭角を現したジャン・シベリウス（1865～1957）は、その状況を憂い、人々の誇りと愛国心を呼び戻すための音楽を目指します。彼の音楽はロマン派の伝統を受け継ぎながらも、フィンランドの自然や伝統・神話をモチーフとして、豊かな情感や緻密な構成で独自の世界を作り、国民の圧倒的な支持を得たのでした。

北欧は合唱音楽の宝庫としてよく知られています。グランフォニックにとってはこの分野は初めてですが、現在の世界情勢から見ても、嘗てのフィンランドを鼓舞したシベリウスの音楽に向かう経験は得難いものになっています。

レミンカイネンの歌 フィンランドの民族叙事詩「カレワラ」の登場人物、レミンカイネンは若くて美しい男前。原曲は管弦楽と男声合唱で爽快に若き英雄の旅立ちを歌います。
「若きレミンカイネンが向かって行く 黄金の愛の丘へ・・・」

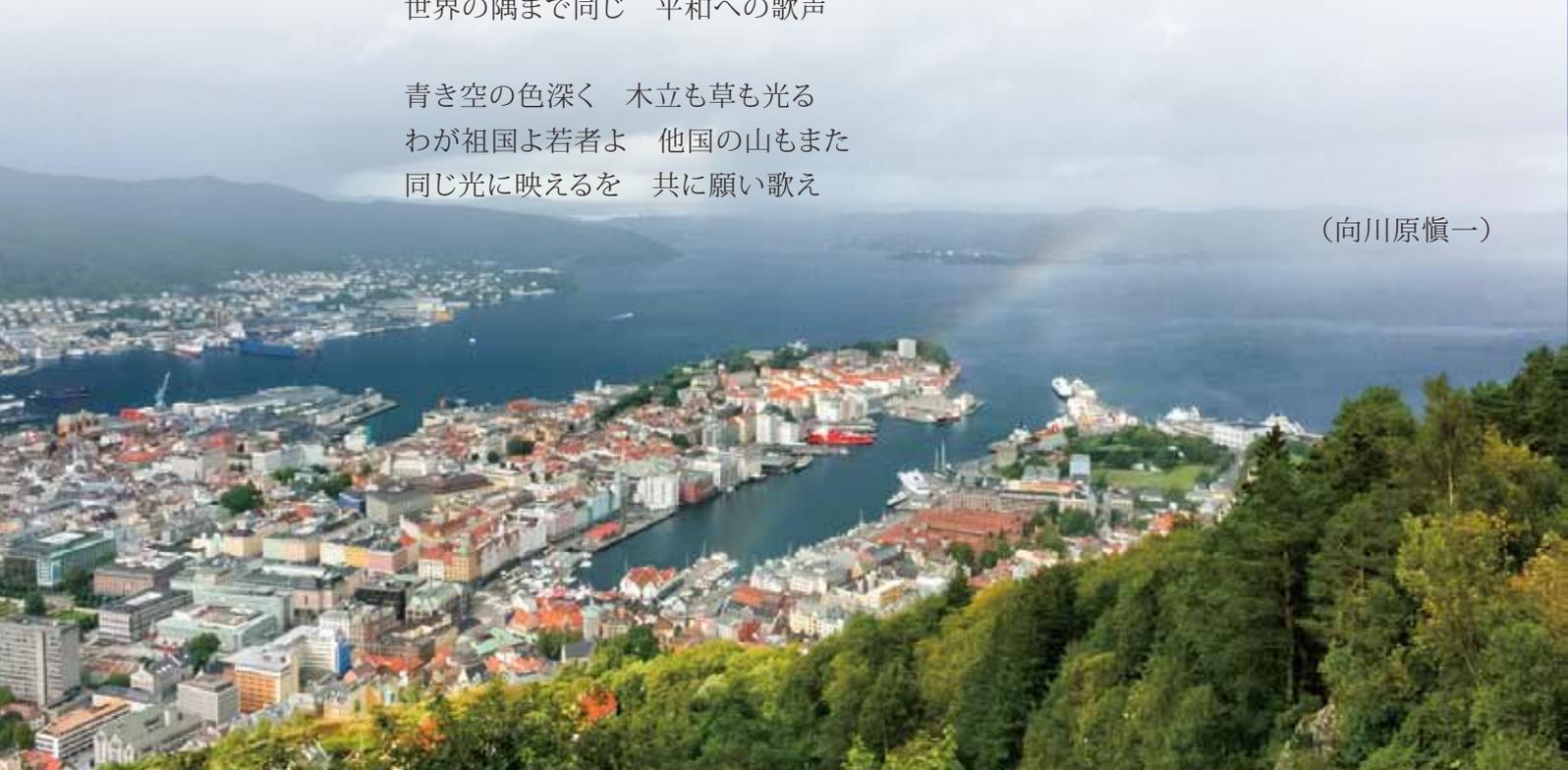
ごきげんよう 月よ 「カレワラ」の詩によるアカペラ合唱曲6つの歌（作品18）の第2曲目、蘇った月や太陽に向かってやさしく歌いかけます。
「ようこそ 月よ 淡く光る 美しい顔を お前は見せる・・・」

フィンランディア シベリウスの代表作「交響詩フィンランディア」全曲を合唱曲として演奏します。原曲にもある合唱部分「賛歌」は、国家存続の危機にあったフィンランドの人々を奮い立たせるものであり、いまでも第二の愛国歌として広く歌われていますが、今回、この部分の日本語はフィンランド語からの訳詞ではなく、「うたごえ運動」を進めた声楽家、関忠亮の詩を使います。単に一つの民族の独立性を称えることを越えて、全世界が平和を求めて声を上げて行こうという大切な意思が込められています。

七つの海越えひびけ 遥かの国の人へ
故郷の野に歌える 私の希望こそ
世界の隅まで同じ 平和への歌声

青き空の色深く 木立も草も光る
わが祖国よ若者よ 他国の山もまた
同じ光に映えるを 共に願い歌え

（向川原慎一）





指揮者 向川原慎一

早稲田大学卒業。現在グランフォニックをはじめ8団体の合唱指揮・指導、及び文化センターの講師を務めている。

2007年には奏楽堂 日本歌曲コンクール作曲部門中田喜直賞の部で、谷川俊太郎の詩「はる」に作曲した作品が最優秀賞を受ける。小林研一郎氏に師事。



指揮者 高津眞司

愛知県出身。刈谷高校のクラブ活動で合唱と出会う。慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団に入団、学生指揮者を務め、木下 保、畑中良輔両先生の薫陶を受ける。指揮を北村協一氏に師事。グランフォニックでは多田武彦の「東京景物詩」「雪明りの路」を指揮し好評を得る。



副指揮者 浅井良之

早稲田大学教育学部卒業。高校で世界史を教え、吹奏楽部の顧問を勤める。中2のとき中村紘子のコンサートを聴いてピアノ演奏に目覚め、高1のときバッハの「ミサ曲口短調」を聴いて合唱音楽に心を奪われて合唱部に入部。早稲田大学グリークラブでは学生指揮者を務めた。



ピアニスト はやせ ようこ

愛知教育大学音楽科卒業、同大学院修了。在学中より声楽の伴奏者としてステージを重ね、名古屋二期会や名古屋オペラ協会、三重オペラ協会など愛知、岐阜、三重のオペラ公演に多数参加。名古屋芸術大学でも長年オペラ授業に携わる。現在はプロの伴奏ピアニストとして声楽やヴァイオリンのソリストとのステージの他、合唱団の定期演奏会、声楽グループ「パッソア パッソ」音楽監督などで活動中。



ヴォイストレーナー 鈴木健司

愛媛大学教育学部卒業。大阪芸術大学大学院修士課程修了。同大学院博士後期課程修了。同大学院にて発声法についての論文を書き博士号を取得。歌唱を三原剛、松本美和子、W. Stephen Smithの各氏に師事。第58回全日本学生音楽コンクール大阪大会1位。第6回日本演奏家コンクール学生部門一位、第7回大阪国際音楽コンクール学生部門2位、第46回なにわ芸術祭新人賞受賞。現在東海中学校音楽科教諭。

団員	T1 伊藤高潤 鹿住 誠 小林 武 榎本真丈 高津眞司 中川 暢 渡邊瑞樹 久野照之 天野甚一 磯田桂司
	T2 石井 清 三ツ口勝弥 間瀬 譲 神谷立正 松浦治徳 大村 元 高橋 淳一 石川周二 本多一義 栗林満裕
	B1 細江太喜雄 安田俊哉 稲熊裕之 松永鐘治 荒田 武 谷川昌隆 井坂太聞
	B2 井ノ口貴敏 浅井良之 永井一美 松原成憲 村上 信 木村文隆 羽原知宏 松井則夫 武田睦夫 阿部健二 梅原 章

ワンステージメンバー	T1 浅井裕之 安藤正和 小川 博 藤田東一 森 哲彦
	T2 井坂清徳 神谷政宏 須藤章夫 竹市史朗 長谷川久夫
	B1 川本 保 澤田光隆 高垣敏昌 松井繁樹 渡辺敏和
	B2 柴田忠和 鈴木広志 平賀恒介

団 長 中川 暢

副団長兼会計 松浦治徳

幹事長 安田俊哉

団長補佐 木村文隆 間瀬 譲

演奏会 村上 信

渉 外 羽原知宏

パートマネージャー T1 久野照之 T2 栗林満裕 B1 荒田 武 B2 羽原知宏(兼)

指揮者 高津眞司

副指揮者 浅井良之

パートリーダー T1 榎本真丈 T2 間瀬 譲(兼) B1 細江太喜雄 B2 浅井良之(兼)

クリエイティブ委員 永井一美 稲熊裕之 磯田桂司

名誉団員・指揮者 向川原慎一

全国20以上の学校の主にグリークラブ出身者が集まっています。

新
団
員
募
集
中

練 習:毎週木曜日 18:30~20:45

第一日曜日 13:00~16:30

場 所:フェールMAMI(金山駅徒歩5分)

会 費:3,000円 / 月(学生の方は半額)

指揮者:向川原慎一・高津眞司・浅井良之

団 員:20代から80代まで 約40名

入団資格:男声合唱が好きな方ならどなたでも

お問合せ:間瀬 E-mail:yuzurumase@outlook.jp